

# 独り暮らし高齢者 安否確認事業も

10月2日 痴ほうケア問題で講演会

「高齢者の生活の質を向上させるには、独り暮らしの高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である」と、金川市社会福祉協議会（社協）の職員が、市内の各施設で高齢者の生活状況を調査している。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。

## 発足20周年「たんぼぼの会」



20周年の集い。左から、金川市社会福祉協議会（社協）の職員、たんぼぼの会の役員ら。

同会は、平成14年6月、高齢者福祉を全国初の介護保険法に基づいて発足した。当初は、市内の各施設で高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。

20周年を記念して、10月2日（木曜日）午後2時から、市内の各施設で高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。

（第三編 福祉関係）



初めの男性介護者の集い

### 初めの男性介護者の集い

9月10日 情報交換をする場に

「男性介護者の集い」は、市内の各施設で高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。

「男性介護者の集い」は、市内の各施設で高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。調査は、高齢者の生活状況を把握し、必要に応じて訪問介護や見守りサービスを提供することが重要である。

痴ほう介護サポーター養成講座

# 介護家族を支援

## 障害老人を支える会

予定人員の2倍 1000人が殺到

# 熱気であふれる

国の「痴呆症支援事業」で痴ほう性老人の在宅生活を支援する「痴ほう介護サポーター」の養成講座が31日と1日、釧路市総合福祉センターで開かれた。予定定員の2倍の1000人が受講し、熱気にあふれた研修となった。

(坂本めぐみ)



これは北海道の老人を支える家族の会の事業として釧路地区障害老人を支える会（たんぼの会・岩淵雅子会長）が釧路では初めて主催した。釧路市の「痴ほう性高齢者家族やすらぎ事業」と連携し、講座修了者は市の支援員養成を行う。有償で希望家庭に派遣されることになる。また、介護士研修としてある、ある介護士研修を修了する40代、50代の受講者が殺到した。

痴ほう介護サポーター

## 市の制度化にも期待

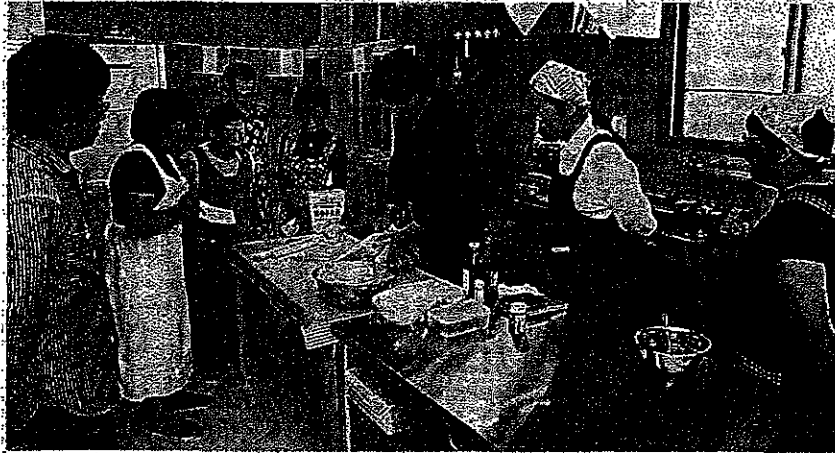
は、介護保険では受けられないサービスが少ない上、住み慣れた場所ですすのが最良とされる痴ほう性老人の在宅介護を支援するもので、介護家族支援が大きな目的。2日間の日程で、痴ほう介護の専門家が痴ほうとは何か、高齢者への理解、その家族への理解などをテーマに講義、演習を行った。

道は老人を支える家族の会の立野新平会長の演習では、痴ほうのお年寄りへの対応の基本は「説得」の納得させる」と参加者がグループ討議を行った。介護家族の会である主催者のたんぼの会の岩淵会長は「施設に頼らず、在宅介護を最優先にするには介護家族への支援が最大の課題。会としても市からたくさんの方々が派遣されるよう制度化してほしい」と期待を寄せている。

グループで熱気あふれる討議を行った痴ほう介護サポーター養成講座

平成十五年六月二日付 釧路新聞より転載

「冬月荘」初のイベントとなった料理会を楽しむ地域住民ら



高齢者、障害者らが支え合い、生きる場

# 冬月荘が本格始動

## 地域住民交え料理会も

釧路

障害者や高齢者、生活保護受給者、母子家庭の人たちが福祉制度の枠を超え、支え合いながら生活、就労する場「コミュニティハウス冬月荘」（釧路市米町）が、本格始動した。十一日には地域住民らを集えた料理会が開かれ、参加者からは「温かい雰囲気、居心地がいい」と好評で、今後もイベントが続々と行われる予定だ。

（村田亮）

冬月荘は、一階を支援企業の前社員寮を使い九月に開設。この二カ月、場、一階を地域住民と交通内各地の行政関係者ら流す場とし、NPO法の視察が相次いでいる。人「地域生活支援ネットワーク」（日置真）が、民間子育て中の親子や住民ら

合えるような雰囲気」を目標にしたという。幼少期にいじめを受け、学校に通わなくなり、今も社会とかわる機会がないという無職の女性（二）は「ほかの参加者から」ビザの作り方を教えてもらいました。ふれあいごとでもよかった」と笑顔で話していた。

十三日には、釧路地区障害老人を支える会（たんのほの会）が午前十時から、認知症の介護家族のつどいと医療相談会を実施。十四日には母子家庭の母親を対象とした市主催のパソコン教室の補習の場として活用、三十日には料理会に次ぐイベントとして歌謡会を午後一時から行う。冬月荘は、生活保護者が高齢者を介護、高齢者が母子家庭の子育てをサポートすることで、それぞれ生きがいを見出し、自立への道筋をつけることを目指している。現時点で居住者はいないが、日置事務局長代表は「多くの人に集まってもらい、冬月荘の可能性を探りたい」という。問い合わせは冬月荘0154・655・1465へ。